

学力等の諸調査結果について

1 英語検定について

英語検定に関する状況調査の結果

<p>令和7年度 (令和8年3月の状況)</p>	<p>○ 令和7年度における中学校1年生の5級以上の取得率は61.6%、中学校2年生の英検4級以上の取得率は34.3%、中学校3年生の英検3級以上の取得率は50.7%でした。国の第3期教育振興計画における目標「中学校卒業時にCEFR A1（英検3級相当）以上を達成した生徒50%以上」を達成しました。また、国が実施する「英語教育実施状況調査」におけるCEFR A1（英検3級相当）以上を取得している中学校3年生の全国値27.8%（令和6年度調査）を大きく上回っていました。</p>
------------------------------	--

※ 今後も各小学校における1・2年生の英語活動、3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科、各中学校における外国語科（英語）及び英語表現科をととした英語教育の充実に努めます。

2 学力調査について

全国学力・学習状況調査の結果【生活習慣に関する項目】

<p>令和7年度 小学校6年 中学校3年</p>	<p>○ 「朝食を毎日食べていますか」の質問では、小学校での肯定的な回答が96.4%と全国・県平均を上回り、中学校は94.4%と全国平均・県平均を上回りました。</p> <p>○ 中学校において、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」では、肯定的な回答が、82.3%と全国平均・県平均を上回りました。</p>
----------------------------------	---

※ 望ましい生活習慣を身に付けた児童生徒を育成するために、今後も家庭や地域との連携に努めます。また、「えびの学」を中心として、ふるさとを愛し、ふるさとに自信と誇りをもつ児童生徒及び地域に貢献しようとする気概をもつ児童生徒の育成を目指します。

全国学力・学習状況調査の結果【国語・算数/数学・理科】

<p>令和7年度 小学校6年 中学校3年</p>	<p>○ 小学校については、全教科において、全国平均・県平均を下回っていました。</p> <p>○ 中学校については、国語・数学ともに、県平均を上回っており、全国平均をやや下回っていました。理科においては、県平均を上回り、全国平均とほぼ同等でした。</p> <p>○ 小・中学校ともに、全教科において、無解答率が全国及び県の状況と比較するとやや低く、粘り強く取り組んでいますが、記述式の問題については課題が見られました。</p> <p>【小学校】</p> <p>○ 国語では、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」に課題が見られました。算数では、「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述する」ことに課題が見られました。理科では、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識」に課題が見られました。</p> <p>【中学校】</p> <p>○ 国語では、「話すこと・聞くこと」の領域において、課題が見られました。数学では、図形領域において、証明することに課題が見られました。理科では、「考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述すること」に課題が見られました。</p>
----------------------------------	---

みやざき小中学校学習状況調査の結果

小学校（小4）【国語・算数】

中学校（中1）【国語・社会・数学・理科・英語】

<p>令和7年度 小学校4年 中学校1年</p>	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語・算数ともに、全国・県平均をやや下回っていました。 ○ 国語では、「読むこと」の領域において、文章構成や意図の把握に課題が見られました。 ○ 算数では、「変化と関係」の領域において、県平均を上回っていましたが、図形領域において、角度や図形の捉え方、面積や円周の求め方に課題が見られました。 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5教科平均正答率では、県平均上回っていました。 ○ 国語は、県平均やや下回っていましたが、「読むこと」の領域ではは県平均を上回っていました。 ○ 社会では、全ての領域において、県平均・目標値を上回っていました。 ○ 数学では、県平均をやや下回っており、「数と式」「図形」の領域においてやや課題が見られました。 ○ 理科では、全ての領域において、県平均を超えているが、記述式問題にも課題が見られました。 ○ 英語では、「読むこと」は県平均を上回っていましたが、「聞くこと」「書くこと」に課題が見られました。
----------------------------------	--

えびの市総合学力調査「みなほ」の結果

小学校（小1～3）【国語・算数】、（小5・6）【国語・社会・算数・理科】

中学校（中2）【国語・社会・数学・理科・英語】

<p>令和7年度 小学校1・2・3・5・6年 中学校2年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校については、低中学年の国語・算数において全国平均や目標値を上回っており、良好な状況でした。高学年では、国語・算数・理科において目標値を上回っていました。 ○ 中学校2年については、国語・社会において、目標値を上回っており、特に、社会においては、全国平均値を上回っていました。数学・理科・英語に課題が見られました。
--	--

※ 調査対象の学年や教科に限らず、児童生徒の学びの姿を示す「ひなたの学び」を意識した授業改善を推進します。「主体的・対話的で深い学び」を通して、粘り強く問題の解決に取り組もうとする態度の育成に努めます。1月に各学校の担当者を対象に、本調査結果の分析研修会を実施し、分析方法や授業改善の在り方について共通理解を図りました。単元末・学期末の学びの見届けや学年末の学びの確認などによる学習内容の定着や習熟を図るために、学校の組織的な取組の充実に努めます。

3 新体力テストについて

新体力テストに関する調査の結果

<p>令和7年度 小学校1～6年 中学校1～3年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第5学年については、男女ともに「握力」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」「体力合計点」において全国平均平均を上回っていました。一方、男女ともに「上体起こし」「50m走」に課題が見られました。 ○ 中学校第2学年については、全体的に体力面の課題が見られ、体育科での指導及び体育的行事等での取組の充実が必要です。
--------------------------------------	--

※ 学校ごとに各学年の児童生徒の体力・運動能力の実態に基づいた「スクールスポーツプラン」を作成し、課題のある項目について重点的な指導を行います。また、学校の教育活動全体を通じた計画的・継続的な取組により体力の向上に努めます。